

## 第 3 2 回知床五湖登録引率者審査部会 議事概要

日時：2020 年 1 月 16 日（木）14:00～17:00

場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

出席：渡邊・竹原（環境省）、大道（北海道）、南出・吉田（斜里町）、古坂（自然公園財団）、寺田・岩山（登録引率者代表）、岡崎（知床ガイド協議会）、新村（知床斜里観光協会）、岡本・石名坂・秋葉（知床財団）

欠席：桑島（ウトロ自治会）、松田（登録引率者代表）

概要：

今年度の利用調整地区とヒグマ活動期の運用結果、登録引率者の研修と登録試験の実施結果、審査部会会計決算について報告され、それぞれ承認された。来年度の登録引率者の新規募集要領および養成研修カリキュラムのあり方について協議し、原案の研修カリキュラム日程に一部変更を加え運用する方向性にて合意され、周知広報を進めることとした。

来年度のヒグマ活動期の運用計画について協議があり、小ループ・当日受付事業の設定料金を値上げする方向性にて合意され、次回知床五湖の利用のあり方協議会で承認を求める方針とした。また、一部期間の五湖 FH 開館時間について、園地内各施設の運用時間と足並みを揃え現行より短縮する方向性にて合意され、次回知床五湖の利用のあり方協議会で承認を求めることとし、その他業務内容の見直し等は協議を継続する方針とした。

また、利用調整地区制度導入後 9 年分のヒグマ活動期のヒグマ出没状況やツアー運用状況の解析結果が共有され、自動撮影カメラの設置やツアー無線交信の音声録音などにより、客観的なデータ収集を試行する方向性が合意された。

議事：

### 【報告事項】

- (1) 2019 年度 ヒグマ活動期の運用結果について
- (2) 利用適正化計画の改定について
- (3) 知床五湖登録引率者審査部会の会計報告について

### 【決議事項】

- (4) 2019 年度 登録引率者研修及び試験の結果について
- (5) 2020 年度 登録引率者 新規募集及び養成研修について
- (6) 2020 年度 ヒグマ活動期の運用について

### 【協議事項】

- (7) ヒグマの出没状況等について
- (8) その他

議事概要：

【報告事項】

1) 2019 年度 ヒグマ活動期の運用結果について（●：意見、✓：まとめ）

資料 1-1 知床五湖利用調整地区の運用結果について（速報）<知床財団／金川>

資料 1-2 ヒグマ活動期の運用結果について（詳細）<知床財団／金川>

資料 1-3 小ループ・当日受付カウンター事業の実施結果について<登録引率者代表／寺田>

参考資料 1 2019 年度 知床五湖園地の来園者数について<知床財団／金川>

参考資料 5 2019 年 10 月 17 日に発生したヒグマとの危険遭遇事例について<知床財団／石名坂>

今年度の利用調整地区通期の立入認定実績、ヒグマとの遭遇状況、地上遊歩道の供用状況、園地全体の推計来園者数について報告があり、また 10 月に地上遊歩道で発生したヒグマと一般利用者の危険遭遇事例について説明された。ヒグマ活動期の運用結果および運用上の課題、小ループ・当日受付カウンター事業の結果について報告があった。

登録引率者の寺田氏が引率者代表に就任した。

ヒグマ活動期のツアー参加者数について

- 園地全体の利用者は増えている一方、5 月の大ループ参加者数が減少した要因は何か。（渡邊）
- 個人利用の来訪者が少なかったためではないか。（岡崎）
- 小さな子供連れの家族での利用が多かった印象があり、大ループを選択しなかったのではないか。（古坂）
- GW の長期連休に利用が集中し、以降の需要を先食いした可能性が考えられる。（秋葉）

ヒグマの出没状況について

- 10 月 17 日の事案のようなヒグマの情報もあるため注意が必要である。（南出）
- 異常な行動をするようなヒグマとの遭遇経験について、過去に他の場所も含め事例はあるか。（渡邊）
- 2 回ほど経験があるが、ヒグマの行動は予測がつかない。ヒグマがこう動くだろうという予測で判断してはいけない。（岡崎）

**2) 利用適正化計画の改定について（●：意見、✓：まとめ）**

資料 2 利用適正化計画の改定について<環境省／竹原>

参考資料 2 知床五湖利用調整地区 利用適正化計画（第 3 期）案

利用適正化計画の改定について、改定スケジュールと計画の改定案が確認された。利用適正化計画については、次回知床五湖の利用のあり方協議会での最終承認を経て、来年度より改定後計画を運用することとした。

**3) 知床五湖登録引率者審査部会の会計報告について（●：意見、✓：まとめ）**

資料 3 知床五湖登録引率者審査部会 決算書<斜里町／吉田：会計監査・桑島氏の代理報告>

今年度の審査部会の会計監査の結果が報告され、承認された。

**【決議事項】**

**4) 2019 年度 登録引率者研修及び試験の結果について（●：意見、✓：まとめ）**

資料 4-1 新規養成者、既存の登録引率者研修の実施状況について<知床財団／秋葉>

資料 4-2 登録試験結果について<知床財団／秋葉>

今年度の新規養成研修及び登録試験の実施結果の報告があり、試験結果について承認された。

- ✓ 新規養成者は 5 名、うち 3 名が研修 A～G までの研修を終えて受験資格を取得し、登録試験を受験、合格した 2 名が来年度の引率登録の資格を得た。（秋葉）
- ✓ 既存の登録引率者 32 名のうち 31 名、一時休止中の引率者 1 名の計 32 名が所定の研修を終えて登録試験を受験し、32 名が合格した。（秋葉）
- ✓ 来年度は新規の引率登録が 2 名、未更新者の資格更新 1 名を含む既存引率者の資格更新が 32 名となり、前年比 1 減 3 増の計 34 名が引率登録を予定している。（南出）

5) 2020 年度 登録引率者 新規募集及び養成研修について（●：意見、✓：まとめ）

資料 5-1 2020 年度 知床五湖登録引率者の新規養成募集要領（案）＜北海道／大道＞

資料 5-2 2020 年度 登録引率者養成研修・登録・更新のスケジュール＜北海道／大道＞

資料 5-3 2020 年度 登録引率者の新規養成研修カリキュラムと試験要領＜北海道／大道＞

資料 5-4 2020 年度 既存の登録引率者の研修カリキュラムと試験要領＜北海道／大道＞

参考資料 3 2019 年度 登録引率者養成研修・登録・更新のスケジュール

【資料の修正・変更】

資料 5-2

誤) 募集期間 1 月 27 日 (月) ～3 月 6 日 (木)

正) 募集期間 1 月 27 日 (月) ～3 月 6 日 (金)

変更前) シーズン前研修 ①4 月 9 日 (木) ②4 月 14 日 (火)

変更後) シーズン前研修 ①4 月 16 日 (木) ②4 月 21 日 (火)

変更前) 引率者登録試験 1 10 月 30 日 (金) 16:00-

変更後) 引率者登録試験 1 10 月 30 日 (金) 17:30-

来年度の募集要領、養成研修・登録更新スケジュール、試験要領について事務局案が示され、日程等を微修正した上で承認された。なお、シーズン前研修の日程変更については、会議後に引率者代表より変更の要望を受け、事務局の承認を以て確定とした。

新規養成研修 D の引率を担当する登録引率者を謝金支払い対象とする提案があり、承認された。

新規養成募集要領・養成研修カリキュラムについて

- 事前準備等が必要なため、新規養成の応募希望者の情報があればご紹介いただきたい。(秋葉)
- シーズン中研修の開始時間については、時期的にガイド活動中の方が多いという理由から遅い時間の 17:30 に設定された経緯がある。(金川)
- 引率者登録試験 1 の開始時刻 16:00 は早いため、再考いただきたい。(岩山)
- 原案にある開始時刻 16:00 は筆記試験の受付開始時刻かと思う。昨年と同じ実施時間にする方が混乱を招かないため、試験自体の開始時刻は昨年と同じく 17:30 でよいのではないか。(秋葉)
- (会議後) シーズン前研修の日程は春期利用適正化実験に配慮した結果、4 月初旬実施と変更された経緯がある。来年度は実験が実施されないため 4 月下旬に設定してほしい、という引率者の総意である。(寺田)
- ✓ 応募手続きの提出書類について、履歴書と応募用紙の記入項目に重複が見られるため、履歴書の文言を削除し、応募用紙に集約することとした。(大道)
- ✓ 新規養成募集の応募受付期間は 1 月 27 日から 3 月 6 日までとし、スケジュールに則って周知広報を進めることとする。(南出)
- ✓ 引率者登録試験 1 (筆記試験) については、受付開始時刻を 16:00、試験自体の開始時刻は 17:30

とする。（南出）

- ✓ （会議後）引率者代表からの要望を受け、登録引率者シーズン前研修の日程を 4 月 16 日、21 日に変更する。（事務局承認）

#### 養成研修に係る会計支出について

- 新規養成研修 D で引率を担当する既存引率者の負担が大きいということを鑑み、審査部会の会計から謝金をお支払いするのはいかがか。（渡邊）
- 150 万円の繰越しについては、仕組みの立ち上げ等に投資する方向で引き続き検討していきたいと考えている。良い使途のアイデアがあれば共有いただきたい。（秋葉）
- ✓ 来年度より新規養成研修 D の引率担当者に謝金を支払う方針とし、研修の実施要領に反映する。（南出）

#### 6) 2020 年度 ヒグマ活動期の運用について（●：意見、✓：まとめ）

資料 6-1 2020 年度 ヒグマ活動期の運用計画について<環境省/渡邊>

資料 6-2 2020 年度 小ループ・当日受付カウンター事業について<ガイド協議会/岩山>

参考資料 4 2019 年度 ヒグマ活動期ツアー実施スケジュール

来期のヒグマ活動期の運用計画については、小ループ・当日受付事業の運営体制の改善のため、小ループ・当日受付ツアー料金値上げの意向が示され、値上げの増収分を事業の共通経費に充当することを条件に合意され、関係者間で事業調整を行った上で来年度事業計画として次回知床五湖の利用のあり方協議会に提出する方針とした。

知床財団より五湖 FH の開館・閉館時間について問題提起があり、五湖 FH の開館時間については園地内の各施設の運用時間と足並みを揃え、8:00 に変更する方向で合意されたため、次回の知床五湖の利用のあり方協議会に承認を求める方針とした。五湖 FH の業務内容やサービス提供時間については、引き続き見直しを協議していくこととした。

#### 小ループ・当日受付事業とツアー料金の見直しについて

- ガイド協議会からの委託を受け、知床財団が 2014 年から 6 年間当日受付事業の実務を担ってきており、今年度は小ループと大ループ当日受付の参加者約 4,000 名、1 日平均で約 50 名の受付を行った。受付業務や連絡調整、経理事務、ツアーの再振り分け事務、無償で行ってきている小ループの受付事務など、当日受付事業に 1 日あたり約 3 名を配置しているが、業務量に対し運用コストが膨大であり、継続が困難な状況となっている。事業内容の見直しを要望する。（岡本）
- 小ループと大ループ当日受付のツアー料金を 500 円から 1,000 円値上げし、健全な事業運営体制を目指したい。この部会で承認が得られれば、ガイド協議会内部で調整を図り、事業計画として知床五湖の利用のあり方協議会へ提案したい。ただ、500 円の料金値上げでは運営経費を充分賄えないのが現状である。（岩山）
- ツアー料金の相場というものはないが、約 25 年前に十勝然別のネイチャーセンターで用いられていたツアー料金 1 時間 2,000 円を参考に知床でのツアー料金を設定した経緯があり、全国的にもこ

の水準であったと記憶している。現在は事前予約と当日受付のツアー料金が逆転した状態となっていてしまっているのも課題である。五湖のツアー料金はさらに認定手数料を上乗せされており、傷害保険料金も加味しなければならない。また、業務委託先の知床財団に大変な負担をかけている状況のため、事業内容の改善を図りたい。（岩山）

- 運営経費を賄えないのであれば、個人的には五湖大ループの当日受付ツアー料金は6,000円でも問題ないかと思う。（大道）
- 現在ガイド協議会は事業赤字であり、過去にエージェントからいただいた寄付を少しずつ取り崩している状況である。過去に受託していた環境省業務の収入もなくなり、当日受付事業の紹介手数料以外の収入源がなく財政的に厳しい状況である。知床財団にかかる当日受付業務の負担は増大している一方、仮に当日受付事業をやめてしまうと、観光客や斜里町の観光にマイナスの影響が大きい。審査部会会計の余剰金で事業予算を補うなど、良い落としどころを見つけていただきたい。（岡崎）
- 当日受付ツアー料金の値上げ根拠をしっかりと説明できれば良いのではないか。ツアー料金の値上げによる事務手数料分の増収を事業運営資金へ回し、事業委託費を上げることで事業の継続を図る、ということであれば利用者や地域の理解が得られるのではないか。（新村）
- 全国的にも貴重な知床五湖の利用の仕組みを維持するため、ツアー料金を適正に設定する必要があると認識している。ガイド協議会内部でもツアー料金の設定について意見の食い違いがあるため、値上げ額の調整に時間をいただくことになるかと思うが、値上げについてご理解いただければ、知床五湖の利用のあり方協議会への提案を目指し調整に入りたい。（岩山）
- 現在のヒグマ活動期の利用制度の仕組みが成功事例として認識され、利用者が伸びている時にこそ次のステップを考えていかなければならない。行政を含め多くの関係者が多大な制度運用コストを負担しており、我々を含めそれらから多くの恩恵を受けているため、還元していかなければならない。（秋葉）
- 事業継続に必要な共通経費を維持・捻出するためのツアー料金値上げであれば、利用者にとっても分かりやすいのではないか。ただ、ツアー料金の値上げ幅があまりに大きいと利用者数の急減といった懸念があるため、値上げは利用者の反応等を見つつ段階的に行うべきである。また、制度自体を良くするための共通経費として、ガイド協議会が制度全体の運用に投資していくような循環が生まれると良いと考えている。（秋葉）
- 当日受付事業の健全化のため、当日受付利用者に負担を求めることに違和感はない。利用者の受け入れ体制がしっかりと整備されていれば、料金がある程度高くても利用者に満足いただける。利用者はサービスへの期待値として対価を支払うため、このような前提であれば値上げ自体に抵抗は示さないのではないか。（新村）
- 当日受付事業は引き続き知床財団に業務委託したいと考えている。具体的な当日受付ツアー料金の値上げ額をガイド協議会内部で調整し、事業内容や委託費の調整を行いたい。（岡崎）
- ✓ 小グループ・当日受付のツアー料金については、増収分を共通経費に充てることを条件に値上げの方向性で整理し、後日関係者間で調整を行った上で、知床五湖の利用のあり方協議会へ事業計画として提出することとする。（南出）

五湖 FH の開閉館時間について

- ヒグマ活動期の職員 1 日あたりの五湖 FH の勤務時間は、通勤時間含め 12 時間を超える勤務状況となっており、期間を通して 8 名近くの職員を充てている。今後、これだけの人員を確保することが困難なため、五湖 FH の業務内容や開閉館時間を見直していただきたい。具体的には、①開園からヒグマ活動期の五湖 FH 開館時間を 7:30 から 8:00 に変更、②同期間の五湖 FH 閉館時間を 18:30 から 18:00 に変更（15 時台のツアー 3 枠を削除し、他の時間帯へ割り当て）、の 2 点を要望する。（岡本）
- 開閉館時間の短縮に伴う影響は、①に伴い開園から 5 月 9 日の植生保護期の 7 時台のレクチャーがなくなる、②に伴い 15 時台のツアー枠がなくなる、を想定している。また、園地開園時間と五湖 FH 開館時間を区別して整理していただきたい。（秋葉）
- 五湖 FH の勤務時間については、管理者として改善の必要があると認識している。一方、園地施設の運用時間の変更が伴う案件であるため、地域との調整が必要と考える。（渡邊）
- 来年度ヒグマ活動期のツアー予約受付開始が 2 月 14 日に予定されているため、ここではツアー予約に影響がある案件とない案件を分けて議論する必要がある。（秋葉）
- ホテルのチェックインを控えた利用者で午後早い時間帯のツアー枠が混むことが多く、その対策として 15 時台 3 ツアー枠に予約を誘導することが多いため、3 枠がなくなってしまうと引率者の立場として非常に困る。（岩山）
- 現在のヒグマ活動期においては、ヒグマの出没件数が増加していることに関連して五湖 FH 閉館後の事務負担が増加している。18:30 の閉館後も職員を長時間勤務させなければならない状況であり、運用上の課題と感じている。（秋葉）
- 20 分間隔でツアー枠が設定されている時間帯を 10 分間隔に変更し、トータルのツアー数を維持しつつ 15 時台ツアー 3 枠を削除するという代替案は考えられないか。もしくは、施設サービスの総合案内窓口のみ 30 分短縮し 18:00 終了とするなど、事務負担の軽減と併せ検討いただきたい。（秋葉）
- 15 時台ツアー 3 枠が設定人数の 3 分の 1 程度しか利用されていないのであれば、維持する必要性について検討が必要かと考える。土日は 15:30 まで、平日は 15:00 までツアーを行うという方法は考えられないか。（渡邊）
- ヒグマ活動期通期の 15 時台ツアー 3 枠の合計参加者数は約 500 人、稼働率（3 枠合計の「参加人数 / 参加可能人数」）は 5 月が 14%、6 月が 27%、7 月が 49%である。（岡本）
- 負担軽減のため取り得る手段は、時間短縮、事務量の軽減、労働対価の増額の 3 つであり、現実的にはそれらの組み合わせとなる。環境省との相談になるが、施設サービスの提供時間を段階的に短縮していく方向は考えられないか。（秋葉）
- 園地施設を管理している立場から、職員 2 名体制で早朝 7:30 から園地を開園するのが厳しい状況であり、駐車場を含む園地開園時間を 8:00 としてほしい。補足になるが、7:30～8:00 の時間帯の利用状況は、繁忙期以外で 10 台程度、繁忙期で 20～30 台程度である。（古坂）
- 園地開園時間と施設開館時間は横並びでいいのではないかと考える。五湖 FH 開館時間については、知床五湖の利用のあり方協議会の了承を得られれば 8:00 に変更すべきと考える。園地開園と施設開館時間にズレが生じる可能性があるため、施設管理者間で調整が必要。（渡邊）

- 園地が開園したタイミングで各施設やサービスが開始することが理想である。全体の運用時間を 8:00 と置きつつ、繁忙期のみ 7:30 に繰り上げるといった運用努力を行う形が良いと考える。園地閉園時間についても短縮の見直しが必要と感じているが、日没の関係もあることから良い改善案を持ち合わせていない状況である。（秋葉）
- 売店の開館時間は 8:00 であり、早朝の時間帯のツアー参加者が出発前に飲み物を買えず困ることがある。各施設の開館時間は 8:00 に統一した方がよい。（岡崎）
- 15 時台ツアー 3 枠を残しつつ五湖 FH 閉館時間を 30 分繰り上げ 18:00 とすることが可能か否か引き続き検討しつつ、課題として知床五湖の利用のあり方協議会に上げてもいいのではないかと。（渡邊）
- ✓ 来年度の開園からヒグマ活動期の五湖 FH 閉館時間については、30 分繰り下げて 8:00 に変更する方向で知床五湖の利用のあり方協議会に提案していくこととする。（南出）
- ✓ 五湖 FH 閉館時間については、ツアー時間への影響を鑑み現行の時間で来年度も引き続き運用していくこととし、業務内容の見直しを検討する方向で継続協議していくこととする。（南出）

## 7) ヒグマの出没状況等について（●：意見、✓：まとめ）

資料 7 ヒグマ活動期のヒグマ出没状況とツアー運用状況のとりまとめ結果（2011～2019 年）＜知床財団／秋葉＞

過去 9 年間のヒグマ活動期のヒグマ遭遇状況とツアー運用状況について、蓄積データの解析結果の中間報告があった。自動撮影カメラの設置や無線交信の音声録音等を実施することで、検証可能な客観データの収集を試行する提案が合意され、来年度からの運用を見据え知床五湖の利用のあり方協議会へ提案することとした。

- 「ヒグマに遭わないこと」が前提の制度の中で、事故が 1 度でもあれば利用できなくなる。近年特に知床のヒグマに関しては注目度も高く、専門家会議の場においても制度自体を含めこのままで良いのか問われている。また、ツアーが近距離でヒグマと頻繁に遭遇している状況は「ヒグマを含めた野生動物の生息地保護」という利用調整地区制度の趣旨と齟齬があり、クマの人なれを許してしまっているのではないかとという点において、制度管理者として環境省の立場を問われている。ご意見をいただきながら、来年度に向けた改善措置を知床五湖の利用のあり方協議会でも協議・検討していきたい。（渡邊）
- 遭遇したヒグマに関する正確なデータがないため、自動撮影カメラを設置するといった形でデータ収集を行えないかと考えている。ヒグマとの遭遇時のツアー無線交信についても、情報共有に混乱が生じているという課題が報告されており、音声録音などを行い客観的な検証を行いたい。植生保護期においては、登録引率者に無線機の携行をお願いし、遭遇があった場合に速やかに情報共有をしていただくよう協力をお願いしたい。これら 3 点は来年度より実施したいと考えており、次回知床五湖の利用のあり方協議会に提案したいと考えている。（渡邊）
- ヒグマとの遭遇時ツアー判断に大きく影響する基準として、1 つはヒグマの進行方向が挙げられる。ヒグマが遊歩道順路方向に進んだ場合は中止する。ヒグマの遭遇場所については、ループ内であれば



再遭遇の可能性が十分あり要注意と認識している。ヒグマの行動については、採食中の個体でも注意が必要であり、じっとしているからといって進んでいいという判断にはならない。引率者は概ねこのような基準でツアー判断をしていると思う。（岡崎）

- 現在の制度は引率者を信用してもらわないと成り立たない。信頼できないのであれば、引率者全員にカメラを持たせるような形しかないのではないか。（岡崎）
- 遭遇回避のため音出しをしているにも関わらず比較的近い距離で遭遇が起きており、ヒグマの人慣れが進んでいることを意味すると考えられる。また、集計データにあるように 30m 未満の距離で遭遇があったツアーの継続判断件数が増加している傾向は、引率者のクマ慣れが懸念される。（石名坂）
- ヒグマの対策業務を行う自身の経験からも、樹上の 0 歳子グマの存在に気付かないということが起こり得る。五湖でも 3 年以内にこのような状況下で母グマにツアー参加者が威嚇突進されるような事態が発生するのはないかと懸念している。（石名坂）
- 今年度のような遭遇状況では、何も対処しないわけにはいかない。ツアー無線交信の音声録音や自動撮影カメラでの録画を行い、段階的に検証可能な情報を収集できるようにしていただきたい。ツアーが常に入っているヒグマ活動期においては、ヒグマ対策のスタッフが直接調査をできないことが多いため、遭遇アンケート等の伝聞情報だけでは我々が現地の対応判断を誤る可能性がある。（石名坂）
- 引率者は遭遇回避のため声出しをしているはずだが、ツアー中の遊歩道は静かに感じる。基本に立ち返り声出しを徹底し、緊張感を持ってツアーを行うべきである。（岩山）
- 無線交信の音声記録が残るのは、ツアー引率者と本部双方にとって良い緊張感をもたらす効果も期待できるため、来年度より実施するべきである。（秋葉）
- 2011 年の制度開始から積み上げてきた経験による変化と制度とのずれについては、建前論だけでは解決できない。個々の安全だけでなく制度として担保していかなければならない。（秋葉）
- 新規の引率者とベテランの引率者の間には経験による差がある。経験を重ねた引率者には別の資格があり、引率者みんながそれを目指していけるような仕組みづくりといったアイデアも必要である。（秋葉）
- ✓ 自動撮影カメラの導入と無線交信の音声録音、植生保護期の引率者ツアー無線の携行を来年度より運用する意向が示された。事故のない体制を築いていくため、引き続きご協力をお願いする。（南出）

## 8) その他（●：意見、✓：まとめ）

- 岩尾別川で 1 月中旬にヒグマの目撃があった。積雪量が例年より少ないことが影響しているかと考えられる。一般論として、エサ資源が豊富な年は冬眠が遅れる。五湖の冬期ツアーも始まるため気を付けて実施してほしい。関連する情報があればお寄せいただきたい。（石名坂）
- 五湖の再整備工事は順調に進んでいるが、当初予定通り 1 月末までかかる。その後、2 月 3 日から 5 日の間で 2～3 時間程度、現地に施工検査が入る。冬期ツアー利用と重なるため具体的な日時が確定次第、情報共有する。（大道）

以上